

イチョウ *Ginkgo biloba* Linn.

イチョウ科 Ginkgoaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は深い割れ目が多数入り、厚く、特にコルク質で弾力のある外樹皮が厚い。

内樹皮は篩細胞、柔細胞、繊維細胞と金平糖状の結晶を持つ結晶細胞からなる。基本的には接線方向に同じ種類の細胞が連なった 1 細胞幅のバンドの繰り返しであるが、繰り返しに規則性は見られず、また同じバンドの中でも部分的に異なる種類の細胞でできていたりして、全体として見たとき、配列の規則性はあまり感じられない。

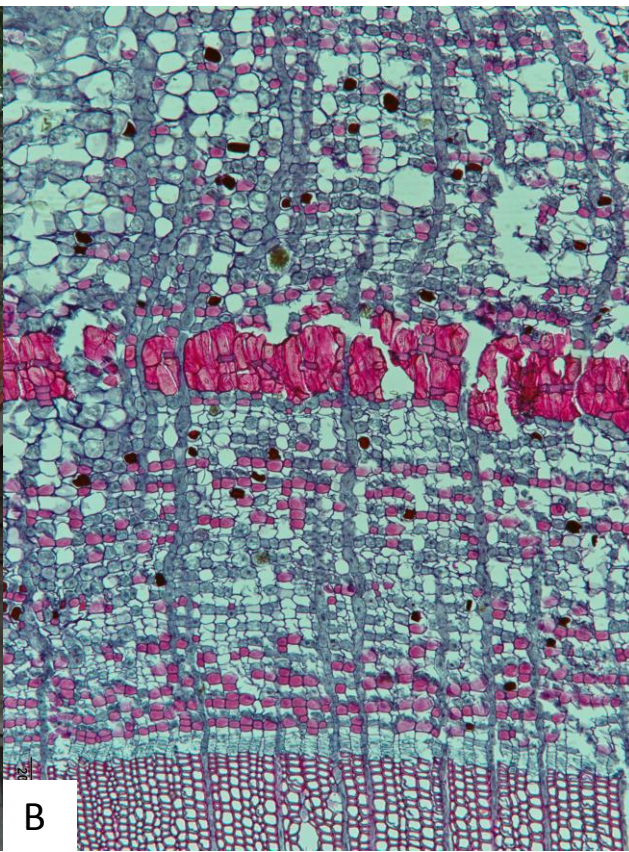
柔細胞は形成層の活動により押し出されて外部に行くと不規則に再分化し、不定形の厚壁異形細胞が集まった接線方向の幅広い帯を形成する。

3. 利用例：なし

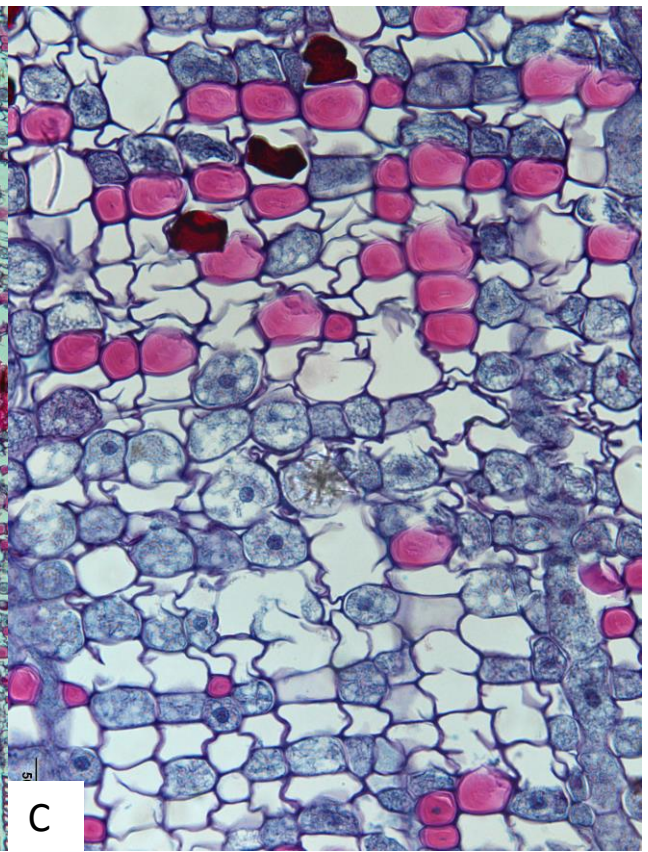
4. 遺跡出土遺物：遺物としての樹皮の利用は知られていない。木材が遺跡から出土するのは近世以降である。



A



B



C

A: イチョウの樹皮(仙台市苦竹の乳イチョウ)。 B&C: 内樹皮の横断面とその拡大。 Bの画面下部に二次木部および形成層帯がある。画面中央に二次的に形成された厚壁異形細胞の帯がある。赤色に染色されているのは繊維細胞と厚壁異形細胞、青紫色で細胞内容物があるのが柔細胞で、時折金平糖形の結晶を持つ膨らんだ結晶細胞が混じる。細胞内容物が無いのが篩細胞。肥大成長により樹皮組織が外側に押し出され、篩細胞が機能を失うと周囲の柔細胞が膨らんで篩細胞を押しつぶす。樹皮の放射組織は単細胞幅。